事業報告

結成大會

一、日時　十月二十七日　夜七時　一、場所　戸畑市清水町四　海員ホーム

一、出席　海員組合戸畑支部(八名)　戸畑海友同志會(五名)　海員組合門司支部(八名)　門司海友同志會(五名)　山口縣海友同志會(五名)　日本勞働總同盟九州聯合會(十五名)　海員協會若松支部(五名)　日本製鐵勞働組合聯合會(五名)　職夫勞働組合(三名)　博多灣從業員組合(三名)　官業勞働總同盟同志會(缺席)　計　六二代議員

一、開會之辭　(司會者)　西向太郎

一、議長選擧　(司會者指名)　議長　嶋津重藏(鐵聯)　副議長　土田保一(海協)　嶋津重藏(鐵聯)

一、議長挨拶　(着席)

一、書記任命　大會書記　緒方實(海組)　同　奥村光夫(總同)

一、大會委員の選任　大會委員長　土田保一　委員　増原操(海組)　白木清三(總同)　石橋和一(職勞)

一、祝詞、祝電の披露　祝電　下關運輸勞働組合、社會大衆黨本部、社會大衆黨門司支部、全日本港灣從業員組合聯盟、海員組合本部、東電從業員組合、海員協會本部

メッセージ　日本勞働合組會議々長　濱田國太郎(朗讀　柳井銀藏)

祝詞演說　黒木本藏(社會大衆黨福岡縣支部聯合會)

一、資格審査に關する大會委員長の報告(別項出席代議員資格承認)　土田保一(海協)

一、結成經過報告　伊藤卯四郎(總同)

勞働立法促進委員會並日本勞働倶樂部の地方的機關として結成されてゐた勞働組合九州協議會が日本勞働組合會議結成に伴つて、それと同一精神の地方機關として九州地方勞働組合會議(改組される必然を說き、日本勞働組合會議結成大會概況、宣言、規約の核心並日本造船勞働聯盟の組合會議脫退の經緯(本部機關誌『組合會議時報』創刊號參照)及既報、勞働組合九州地方協議會(十月十四日夜開催)の議事內容、規約原案の骨子となる申し合せ等に就いて報告す。

質問　久保時造(總同)

イ、勞働組合九州協議會には佐世保の海軍聯盟が參加してゐたのに本會議に參加せざりし理由。

ロ、日本主義勞働組合運動と稱して、資本家團体の提灯持ちをしたり、御先棒を勤めて全國を歩き廻つてゐる神野某の如きが率ゆる階級的裏切り者とも云ひ得べき造船勞働聯盟の如きは斷然、組合會議本部から除名す可きに、松岡組合會副議長、米窪書記長なぞが造船勞働が結成大會のしかも翌日、裏切り的會議脫退を表明したるを慰留せる理由

應答　伊藤卯四郎

イに就いては、海軍聯盟は組合會議に參加してゐないので組合會議の地方的延長機關である本會議への參加を勸誘しなかつた。

ロに就いては、資本家の御先棒をかついだり、提灯持ちをしたりしてゐる裏切者は造船勞働聯盟加入の組合員大衆諸君ではなく神野信一である。松岡、米窪の兩君が神野君を慰留したのは、彼の言ひ分を充分に聽きとつて、階級的に且つ勞働組合運動の本流に立つて辯駁し、彼等の卑劣なる本質を糺明するためであると思ふ。

(質問を打ち切り、報告を滿場一致承認する。)

一、大會議事

イ、九州地方勞働組合會議規約審議の件(原案は代議員一同へ配布)　說明　伊藤卯四郎(總同)

(提出原案を左の如く修正して滿場一致可決す)

原案第五條の全文を抹殺して、左の如く變更